

リモートセンシング衛星とユーザーニーズについて

平成30年11月12日
宇宙開発戦略推進事務局

将来のリモートセンシング衛星の在り方について

宇宙基本計画の工程表改訂に向けた重点事項 <平成30年6月7日宇宙政策委員会>

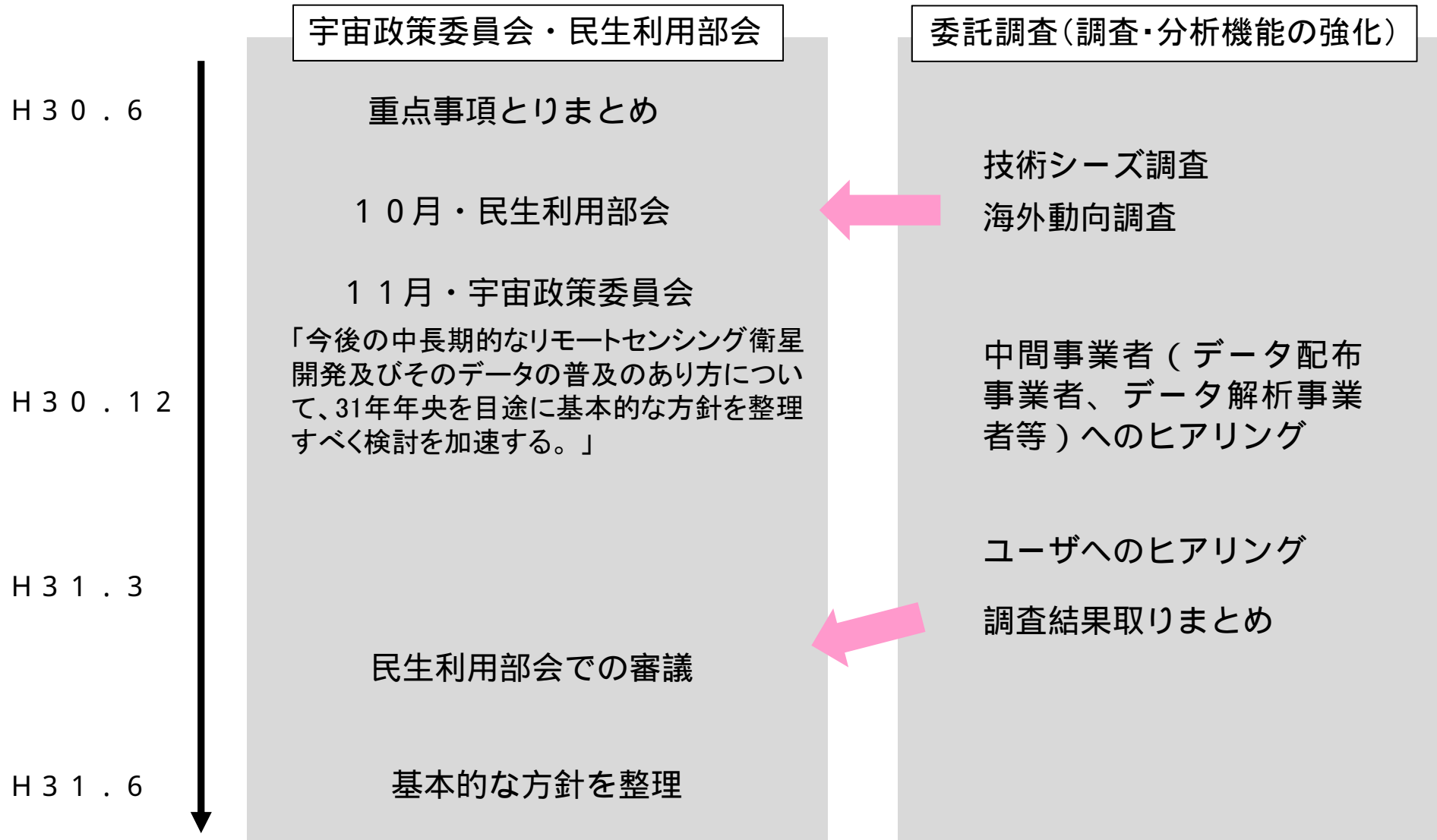
[(1)-3]利用ニーズの各プロジェクトへの反映（工程表3）[内閣府等]

- ・ 平成30年度にも先進的な宇宙データ利用モデルを実証・創出するための事業（宇宙データ利用モデル事業）を実施すること等を通じて、衛星利用ニーズを継続的に掘り起しつつ、将来の衛星開発や衛星データの提供等に継続的に反映する仕組みの具体的あり方について検討する。
- ・ 例えば、防災分野においては、求められる被災状況の早期把握のための衛星データの提供時間短縮や提供形式の在り方等について検討し、防災現場での試行的取組を通じデータ提供側と利用側の一層の連携を進める。

[(1)-4]先進光学衛星・先進レーダ衛星（工程表7）[文部科学省]

- ・ 先進光学衛星（ALOS-3）・先進レーダ衛星（ALOS-4）の利活用拡大に向けて、関係省庁や自治体等と連携して利用ニーズの一層の把握・掘り起しに努めるとともに、平成30年度より実施される政府衛星データのオープン＆フリー化の推進の取組とも連携しつつ、データ提供の在り方を検討するとともに、利用ニーズを今後の衛星開発にフィードバックする取組を進める。

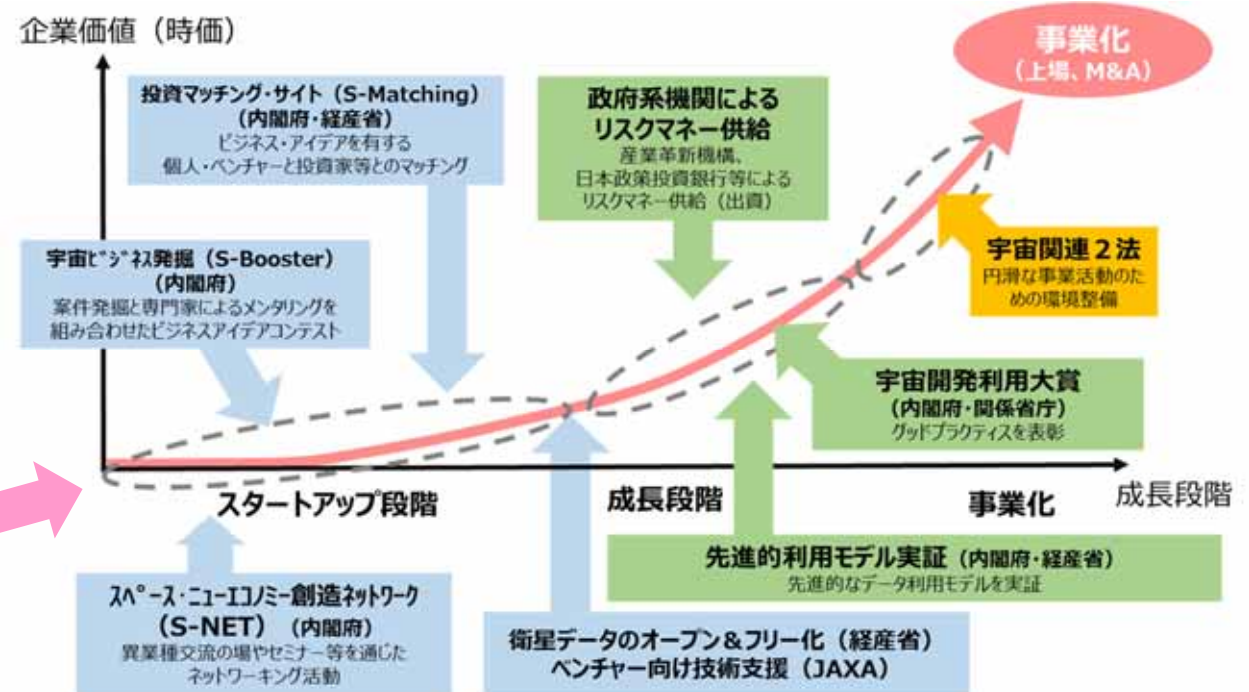
スケジュール



衛星データ利用の更なる促進について

衛星データ利用の更なる促進について

- 準天頂衛星及びリモートセンシング衛星のデータ利用促進については、先導的プロジェクト(S-Booster、モデル実証など)や宇宙開発利用大賞、S-NET、O&Fプラットフォームの創設などにより、一定程度は進捗。
- 一方で、これがリアルなエンドユーザーによる広がりにはまではなかなか至っていない、若しくは広がりが鈍い。



「宇宙データが自分のビジネスに有効」と思っていないポテンシャルユーザーを巻き込むための取組、アウトリーチが不十分

今後の取組の方針案

○農業応用等横展開の可能性が見込まれるグッドプラクティスが生まれていても、自然発生的な横展開は生じにくい

周囲のポテンシャルユーザーへ積極的に展開することが必要ではないか

○宇宙に関わったことがない事業者は、自分が抱える課題が衛星データにより解決される可能性があることに気づきにくい

⇒宇宙分野との関わりの少なかった地域・産業分野の課題を聴取し、宇宙分野の視点でアドバイス等行う必要があるのではないか

